

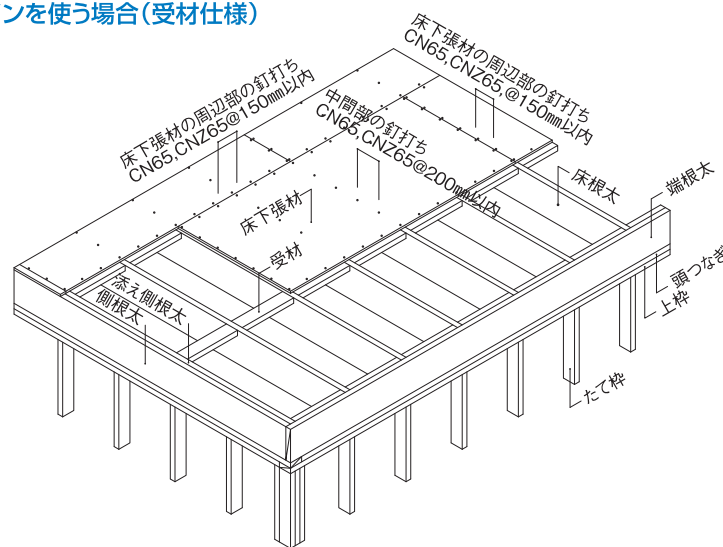
# 2

## ネダノンの標準的な仕様

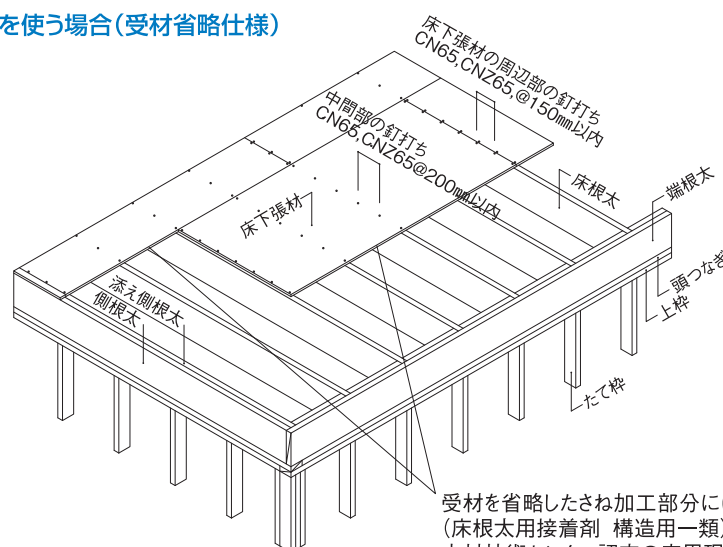
- 床根太間隔を65cm以下とし、ネダノン目地の受材を設け、ネダノンの長手方向が根太に対して直角になるように架け渡します。
- 釘はCN65、またはCNZ65を使用し、ネダノンを周辺部間隔150mm以下、中間部間隔200mm以下で釘打ちします。
- 床根太間隔を50cm以下とする場合は、ネダノン目地の受材を省略することができます。受材を省略する場合、住宅金融支援機構監修の工事共通仕様書では、さね加工を施した合板の使用は義務づけられてはいませんが、歩行時等に発生する目地部の不陸を防止するために、さね加工を施したネダノンの使用をお勧めします。さね部をJIS A 5550(床根太用接着剤 構造用一類)、(財)日本住宅・木材技術センターの認定による床用現場接着剤(P.20参照)または同等品で接着すると、水平構面としてのせん断剛性・強度が向上します。

### 枠組壁工法のネダノン床枠組納まり

#### ■さね加工を施さないネダノンを使う場合(受材仕様)



#### ■さね加工を施したネダノンを使う場合(受材省略仕様)



受材を省略したさね加工部分には、JIS A 5550(床根太用接着剤 構造用一類)、(財)日本住宅・木材技術センター認定の床用現場接着剤又は同等品をさね部分に施工し接着併用すると水平構面としてのせん断剛性・強度が向上する。